

vol.45

とぎすます

2025年11月6日（木）19：00開演

◆曲目

バルトーク

コントラスツ Sz.111

J.S.バッハ = 松原勝也

ゴルトベルク変奏曲 BWV988

(弦楽五重奏版)



◆出演

田島 高宏(ヴァイオリン)

川又 明日香(ヴァイオリン)

村松 龍(ヴィオラ)

三宅 進(チェロ)

助川 龍(コントラバス)

ダビット・ヤジンスキー(クラリネット)

文 京華(ピアノ)

伝説のクラリネット奏者、スウィングの王、ベニー・グッドマンとヴァイオリンの巨匠シゲティに捧げられたベラ・バルトークの「コントラスツ」。カーネギーホール、バルトークによるピアノも含めた録音を今も聴くことができます。トランシルヴァニアの民俗性とJAZZの融合。時代を映し出した究極の音楽史上のコラボはたちまち話題となり世界に広まりました。第3楽章ではスコラダトゥーラという調弦を変えたヴァイオリンも使用するなど、革新と民族の背負った歴史と運命をこの作品は兼ね備えています。

BとB。しばしばバルトークとJ.S.バッハは並べられますが、バロックの時代においてはきっと、バッハは、前衛的な挑戦者であったであろうとよく言われます。豊かな構成美と長大な変奏曲。この曲を有名にしたのは、かのグレン・グールド。皆さまのご家庭にも探したら彼の録音があるかもしれません。今回は、ヴァイオリニストの松原勝也氏が弦楽五重奏版に編曲したエディションを使用して、お届けします。32小節の主題が、32の変奏をもって展開するこの作品は、あまりにも長大です。それゆえに、「眠れない夜のお供とされた」逸話も残るほど。しかし、噛めば噛むほど、じっくりと向き合うと作品の面白さが見えてくる魔力的な魅力があるようです。体力と精神力のいることでしょう。ヴァイオリンには、プランナー助川の札幌時代の同僚にして仙台出身の田島高宏さんを、ヴィオラにはNHK交響楽団より村松龍さんをお迎えします。耳も心も研ぎ澄まして、お楽しみください。